2025（令和 7）年度
事業計画書

2025 年 3 月

北海学園大学　北海商科大学　北海高等学校　北海学園札幌高等学校

学校法人北海学園

目　次

Ⅰ　北海学園が目指す姿.....**2**

Ⅱ　2025（令和 7）年度の事業計画.....**4**

１．教育.....4

２．研究.....7

３．学生・生徒支援.....8

４．社会連携・貢献.....10

５．国際化.....11

６．広報・ブランディング.....12

７．経営基盤.....14

８．施設設備.....18

Ⅲ　予算の概要.....**20**

１．2025（令和 7）年度予算編成の方針.....20

２．収支予算書について.....20

Ⅰ．北海学園が目指す姿

建学の精神・教育の理念

本学園が設置する学校の建学の精神やモットーとしているものの表現は、それぞれ異なりますが、その淵源は 1911 年に“北海学園の父”浅羽靖が制定した 26 条から成る北海中学校の「学訓」に求めることができます。その第 25 条には「道義二由テ発スル所ノ勇二非レバ真ノ勇ト言フヲ得ズ真ノ勇ハ不屈不撓万難ヲ排シテ邁進シ克ク久シキ二耐工死二至ルマデ廃セズ故二成功セザル者幾ンド希レナリ」と定められており、浅羽の「百折に撓むことのない有為の社会人たれ」という教えが北海中学校の学訓において明文化され、今日、各学校に共通して受け継がれています。

- 北海学園大学「開拓者精神」
- 北海商科大学「開拓者精神の涵養」
- 北海高等学校「質実剛健」「百折不撓」
- 北海学園札幌高等学校「質実剛健」「実践躬行」

北海学園 VISION2035

これまで本学園が積み重ねてきた歴史と伝統を継承し、理念の実現と使命を果たすべく、2035 年に迎える創基 150 周年に向けて「北海学園 VISION2035」を策定いたしました。「北海学園 VISION 2035」は、2035 年に本学園がどうありたいか、どうあるべきかをまとめたもので、150 周年に向けて、さらにその先の未来に向けて、本学園がさらなる発展を続けるために掲げた本学園の構成員にとって共通の目標、指針となるものです。

私学の独自性を発揮し、自己改革に取り組む学園

時代や社会の要請に応え、検証と改革に取り組む学園

教育と研究の質的向上をめざす学園

学生・生徒が成長を実感することのできる教育の実践と、学術研究水準の向上に努める学園

地域に根ざし、世界とつながる学園

グローバルな視点をもって地域社会の知の拠点となり、地域の発展に貢献する学園

設置校の連携により魅力的な教育を創造する学園

複数の設置校を有する本学園ならではの多様な教育プログラムを展開する

よりよい学習環境、充実したキャンパスライフを提供する学園

キャンパス・アメニティの向上に配慮して教育研究環境の整備を推進する

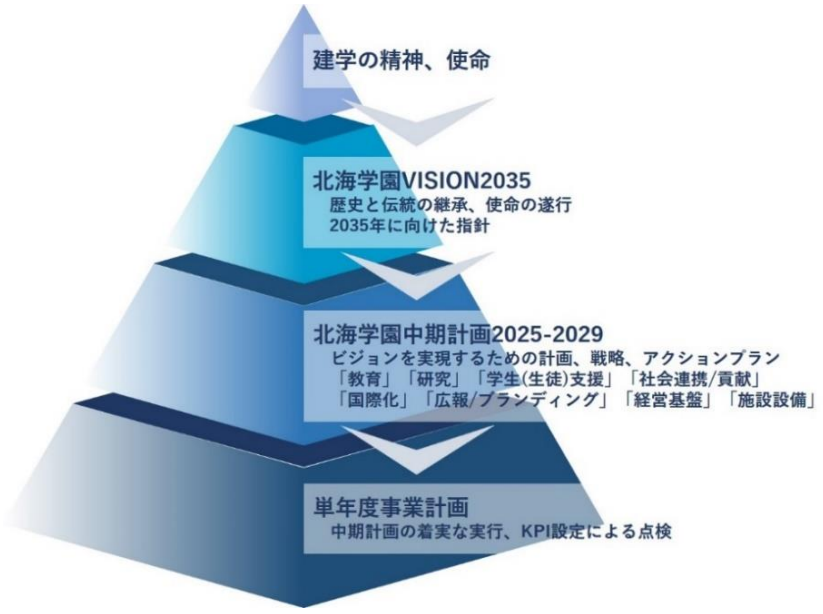
予測困難な変化の激しい時代の波の中においても、学園を構成する全員が、ビジョンに掲げた学園づくりに邁進してまいります。

これら設置各校の建学の精神とこれまでの教育研究活動によって培ってきた歴史や伝統を踏まえ、設置各校に共通する学園としての教育理念を次のとおり再定義しました。

- **パイオニア精神をもった人物の育成**
  「不屈不撓」の精神をもって困難を乗り越え未来を切り拓く志ある人を育てる
- **自ら学び、考え、行動する人物の育成**
  自主・自立・自律を重んじ、確かな学ぶ力と思考力、実践力を育てる
- **広い視野と多角的な視点を有し、国際感覚を備えた人物の育成**
  専門知と総合知を兼ね備え、地球市民としての資質を身につけた人を育てる
- **「質実剛健」で豊かな人間性をもった人物の育成**
  誠実で健全な精神をもち、他者を尊重し多様性を認め合う人を育てる
- **地域や社会に貢献する人物の育成**
  多様な人々と共生・協働して地域や社会を支える人を育てる

事業計画と理念・ビジョン等との関係性

学園の経営や教育研究活動の根幹にあるのは、建学の精神や理念であることは明白であり、中期計画や単年度事業計画においても例外ではありません。私たちが取り組むべき事業計画は、建学の精神や教育の理念を基本に据え、学園の使命を果たしていくために 2035 年に向けて学園が目指す姿を「北海学園 VISION2035」として表し、このビジョンの実現に向けた 5 年間に取り組む中期計画の各年度の内容を定めています。



単年度事業計画は、北海学園中期計画 2025-2029 の内容を具体化し、それぞれ KPI（Key Performance Indicators）を設定することで、その進捗を測ることができるようにし、着実に実行していく仕組みを整えています。

このように、建学の精神、理念からビジョン、中期計画、事業計画に至るまでを連動させることで、計画の整合性を図っています。

Ⅱ．2025（令和 7）年度の事業計画

1．教育

＜北海学園大学＞

1．専門教育と一般教育の充実と再構築	
計画	・専門教育と一般教育に関し、大胆な組織改編を含む全学の大学教育改革の方向性を検討 ・上記と併行して、大学及び学部の施設を見直すと共に、短期・中期・長期的なキャンパスの活用方法・維持保全計画を検討 ・一般教育の充実に資するため、図書館の選書の充実化を検討
KPI	・大学教育改革の検討結果をとりまとめる
2．教学マネジメントに基づく教育の質保証の構築	
計画	・全学の教学マネジメントのあり方を検討し、教学 IR 体制を整備する ・FD 委員会が「授業改善アンケート」と「学生生活実態調査」を実施し、その結果を踏まえて改善に取り組んで学生の満足度を高めていく
KPI	・教学 IR 体制に関する現状課題を整理 ・「授業改善アンケート」の「科目の総合評価」を全科目平均で 4 点以上を達成する（5 点満点）
3．学修支援体制の強化と学修環境の整備	
計画	・SA と RA の制度について他大学での実施状況を調査 ・BYOD などの ICT 教育の取組内容と課題に関する検討実施
KPI	・SA と RA の他大学調査報告を作成 ・ICT 教育の実施内容整理と課題抽出

＜北海商科大学＞

1．教学マネジメントの再構築と教学 IR 体制の整備	
計画	・教育質保証委員会の設置に向け、既存組織の業務の見直しを実施 ・教学 IR 体制の構築に向けて学内検討を開始
KPI	・学内ヒアリング調査等の実施について、学長会議で検討を実施
2．入学前教育の実施	
計画	・総合型選抜と学校推薦型選抜に対する統一的な入学前教育の実施及び入学後の適切な学び方法等について他大学の状況を調査する
KPI	・入試委員会を中心に他大学の状況調査を実施
3．新たなニーズに対応できる積極的な教育課程再編の検討	
計画	・新たなニーズに対応できる積極的な教育課程再編を検討 （基幹教員制度の活用、実務家教員等による教員体制の充実・確保）
KPI	・学科（商学科・観光産業学科）専門教育委員会で学内ヒアリング調査を実施し検討する
4．能動的な学修を支援するための学修支援システム構築	
計画	・リメディアル教育の内容を構築するため、成績不振の学生の情報及び修学支援データを早期に同期するとともに分析を実施 ・他大学の対応状況を調査する
KPI	・教養教育推進委員会を中心に 1 年次生の成績不振の学生の情報及び修学支援の状況を調査し分析を実施 ・他大学の対応状況を調査する

５．学内研究の推進と研究指導体制の強化	
計画	・大学院教務委員会で商学・観光分野での横断的共同研究を行う場合の問題点の抽出を行う ・大学院教務委員会で院生間及び教員との学術交流を促進する研究発表会の実施に向けて学内検討を開始
KPI	・大学院教務委員会の検討を年３回以上実施し、学内共同研究の推進策及び研究発表会の構成内容を作成

＜北海高等学校＞

１．新カリキュラム検討と生徒の学習力向上	
計画	・2027 年度新カリキュラム導入に向けてプロジェクト委員会、運営委員会で検討・素案作成に着手する ・学習力向上推進策検討のため、教育内容や学校生活アンケート結果の分析を実施 ・図書館利用率向上対策検討
KPI	・新カリキュラム素案完成 ・学校生活アンケート結果等分析結果共有、対策案検討着手 ・図書館利用率向上対策案整理、一部実施
２．北海高校独自の探究活動の発展	
計画	・2024 年度の探究委員会の総括をもとに、2025 年度から 2027 年度までの探究活動案を作成 ・沖縄修学旅行における現地教育機関、教育関係施設の活用に関する検証実施 ・法政大学沖縄文化研究所における総合講座の活用と、高大連携協定の締結実現
KPI	・新規探究活動の実施（初年度） ・沖縄修学旅行における現地教育機関、教育関係施設の活用に対する検証結果と次年度以降対策取りまとめ ・法政大学との高大連携協定締結
３．課外活動の活性化	
計画	・強化指定部（硬式野球部、サッカー部、柔道部、アイスホッケー部、陸上競技部）における一定の部員確保と実績強化策検討 ・文化部顧問間の定期的交流 ・運動部、文化部の活性化を目指した情報発信強化策検討 ・生徒会執行部を中心とした自治活動企画の検討
KPI	・強化指定部の強化策のまとめ ・運動部、文化部に関する情報発信回数増加、その他対策のまとめ ・自治活動企画案の作成、北海祭来場者へのアンケート実施と取りまとめ
４．教育 DX の実現に向けた取組み	
計画	・教科ごとの授業における ICT 活用拡大方針決定と実行 ・生成 AI の活用に関する外部研究会参加、各種検証の実施 ・紙ベースで活用しているスチューデントプランナーは、2026 年度からのアプリ化のため内容を検証
KPI	・各教科 ICT 活用策の総括における活用拡大 ・生成 AI の活用に関する検証結果まとめと共有 ・スチューデントプランナーの検証結果まとめとアプリ化に関する方針決定
５．併設大学との高大連携事業の充実	
計画	・北海学園大学の各学部と連携した新規取組みの検討 ・北海学園大学全学部からの協力を得た探究活動実施に向けた検討 ・北海学園大学の教室や図書館の利用に関する検討
KPI	・北海学園大学学部単位での新規連携事業実施１件以上 ・探究活動への北海学園大学協力体制等確定 ・大学の教室や図書館利用に関する大学との共同検討開始

＜北海学園札幌高等学校＞

1．国公立大学及び難関大学への進学率増加（特進コース）	
計画	・教務部中心にカリキュラム変更を検討 ・自習室の利用者を増加するため、校内の自習環境の整備を実施 ・現状の学力水準の把握のため、外部模試や学習調査を用いた分析を行い、大学別受験指導体制の構築を検討
KPI	・新カリキュラムの作成に関する検討を開始し、草案を作成、校内の承認を得る ・特進コースからの国公立・難関大学合格者 32 名以上
2．多様な進路選択の実現に向けた実践的教育の強化（総進コース）	
計画	・教務部中心にカリキュラム変更を検討 ・北海学園大学又は北海商科大学への受験希望者を対象とした面接指導や受験対策指導を実施
KPI	・新カリキュラムの作成に関する検討を開始し、草案を作成、校内の承認を得る ・前年度の受験結果を踏まえた次年度の受験対策の見直しと計画案の策定
3．国内外の教育リソースを活用した多様な進路選択の展開（グローバルコース）	
計画	・教務部中心にカリキュラム変更を検討 ・海外大学進学委員会と連携して入試情報等を生徒に周知するとともに、海外の大学受験指導や受験対策講習を実施
KPI	・新カリキュラムの作成に関する検討を開始し、草案を作成、校内の承認を得る ・海外の大学へ受験を希望している生徒に対する受験指導・講習を実施
4．医療・看護系大学への進学促進（メディカル・プレップコース）	
計画	・教務部中心にカリキュラム変更を検討 ・医療・看護系大学や医療団体との連携協定のための協議を開始
KPI	・新カリキュラムの作成に関する検討を開始し、草案を作成、校内の承認を得る ・医療・看護系大学や医療団体との連携協定を締結（1 件）
5．学習意欲向上と進路目標の明確化につなげる高大連携事業の充実	
計画	・併設校や各連携校との連携事業や推薦枠拡大に関する検討を実施するとともに校内の要望を取りまとめる ・併設校の連携事業に関する担当者と年数回協議を実施
KPI	・併設校や各連携大学との連携事業や推薦枠に関する要望書を作成
6．教育の質向上のための ICT 活用の促進	
計画	・ICT 機器を活用した授業方法を検討し、既存の教育方法に新たな価値観を加えて教育効果を高める ・教員間で ICT 活用に関する情報共有を行えるような仕組みを構築する
KPI	・ICT 機器の新規活用に関する計画案を作成 ・学校評価アンケートの ICT 活用に関する評価の平均を 3.5 以上にする

２．研究

＜北海学園大学＞

１．研究に専念できる制度や体制の充実	
計画	・学内業務見直しの一環として、各種委員会の整理統合と学部毎の委員数の見直しの検討を開始
KPI	・各種委員会の見直し原案の作成
２．外部研究費の獲得推進	
計画	・外部研究費獲得に関する現状分析を行ない、科研費申請書の作成を支援するセミナー等の方策を検討 ・科研費以外の外部研究費の周知実施
KPI	・申請書作成支援施策の決定 ・その他の外部研究費の周知

＜北海商科大学＞

１．科学研究費補助金の獲得推進	
計画	・科学研究費補助金の申請件数の増加を図るため、採択経験豊富な教員による計画書の作成方法等に関する研修会を実施
KPI	・不正防止計画推進室で研修会を企画・実施 ・科学研究費の申請数６件以上とする

３．学生・生徒支援

＜北海学園大学＞

１．学生によるピアサポートの促進	
計画	・ピアサポートやメンター制度の内容と体制を検討 ・「図書館サークル」（仮）を立ち上げ、新入生にデータベースや図書活用法等を伝える
KPI	・ピアサポートやメンター制度の検討結果をとりまとめる ・「学生生活実態調査」の「学習支援（授業が分からないときに教員や上級生から得られる支援）」の満足度 40%以上 ・図書館サークル組織と新規企画実施
２．学業優秀者に対する特待生制度の検討	
計画	・特待生制度について他大学の実施状況を調査し、本学の制度案を検討
KPI	・特待生制度の調査報告
３．キャリア支援体制の充実	
計画	・キャリア支援を取り巻く環境に適応するため、事業・業務内容の見直しと合理化を進める。必要に応じて業務のアウトソーシングや学外事業者との協働も検討する。 ・大学４年間を通じた本学独自のキャリア形成支援のあり方を検討し、構想にまとめる。 ・上記のキャリア形成支援の構想と合わせて、学外（産官学等）・学内（他部局）との連携・協力関係の可能性を模索し、具体化に取り組む。 ・センターが実施するキャリア形成支援のプログラムへの学生の参加・関与を増やす。
KPI	・既存の事業・業務内容のうち不必要なものを整理・統合し、新しいプログラムの開発等に割くことのできる労力的・時間的資源を確保 ・体系的なキャリア形成支援体制のあり方を構想にまとめる ・学内外の関係先と連携・協力のあり方を協議し、具体的な方策を定める ・LINE オープンチャットの活用、協力学生団体の立ち上げ等、全学生との直接的なコミュニケーション方法を確立する（全学生の 30%を対象とする）
４．多様性に開かれた大学生活のための支援	
計画	・健康相談、こころの相談、アクセシビリティ支援などの取り組みの到達点と課題を検証 ・ハラスメント相談やハラスメント防止の取組の到達点と課題を検証
KPI	・「学生生活実態調査」の「学生相談サービス」の満足度 30%以上

＜北海商科大学＞

１．個別最適化したキャリア支援体制の充実	
計画	・学生の将来のキャリアプラニング充実を目的として、卒業生を含む学内外の人を招き、モチベーション向上につながるような授業形式の懇話会／セミナーを計画
KPI	・毎年度就職率 95%以上とする ・懇話会／セミナーを計画
２．ハラスメント防止対策の推進	
計画	・ハラスメント防止に関するオリエンテーション実施に向けた検討を実施 ・教職員向けにハラスメント防止対策と法令遵守に関する研修会を実施
KPI	・オリエンテーション実施に向けた計画案を策定 ・研修会の実施結果をとりまとめ、次年度に向けた計画案を策定（研修会参加率 100%）

３．メンタルヘルスケアの推進	
計画	・教職員を対象に、多様な学生に対する適切な指導・支援に関するアンケートを行い、状況を把握
KPI	・教職員を対象としたアンケートの実施し、カウンセリング委員会で現状の分析を行う

＜北海高等学校＞

１．進路指導体制の充実と指定校推薦枠の拡大	
計画	・進路目標の早期決定を促進する進路指導及びプロジェクトの実施 ・高大連携について協定校と実施内容・企画に関する協議の実施 ・高大連携新規協定締結に向けた大学との協議開始
KPI	・進路指導部方針に基づくプロジェクト実施と進捗 ・2 年生 11 月時点での第一志望校決定割合の増加 ・高大連携協定校との協議 5 回以上、新規企画 1 件 ・新規協定締結に向けた協議開始
２．学力向上と進路実現に向けた支援体制の強化	
計画	・生徒の自主的、意欲的な講習参加を目指し、学年、教科ごとに講習の実施目的を明確にするとともに、コースや部活動参加生徒など多様な生徒が講習に参加できる仕組みを検討する ・各コースの生徒対象の土曜日講習の在り方について検討 ・個別面談時の重要な資料として、スチューデントプランナーの活用策を検討する
KPI	・講習参加生徒数増加 ・講習の在り方に関する検討結果まとめと共有 ・スチューデントプランナー活用実績まとめと共有
３．心の教育の充実	
計画	・いじめ防止に関して、LHR における文科省の教材の活用 ・校内における SNS の利用などソーシャルメディアポリシー、及びガイドライン等の策定への検討 ・トラブルの未然防止や早期対応のためのカウンセリング体制や講話会の実施検討 ・生徒の教養力育成を目的とした外部講師による各種講演会の実施 ・校内施設の正しい利用の仕方について、生徒会と協議
KPI	・いじめに関する文科省の教材活用を含めた講話の実施(年３回) ・ソーシャルメディアガイドラインに関する指導（各クラス１回） ・カウンセリング体制整備と講話会開催（年 2 回） ・教養力育成に関する講演会開催（年 2 回）
４．教員の負担軽減を目指した ICT 機器管理業務の効率化	
計画	・生徒用タブレット PC に関する機種選定方針等の策定 ・ICT 支援員を配置し、ICT を活用した授業計画の助言やコーディネートの実施、トラブル対応を行う
KPI	・機種選定方針に基づく機種決定 ・学校生活アンケートにおける ICT 項目回答の向上

＜北海学園札幌高等学校＞

１．課外活動の活性化	
計画	・部活動活性化策（部活動内容・成果等の情報発信強化や強化指定部制度等）の検討を開始
KPI	・情報発信強化内容の検討と実施（ホームページ部活動報告掲載 10%増） ・強化指定部制度検討（他校制度の情報収集・分析、制度の要否確定）

４．社会連携・貢献

＜北海学園大学＞

１．地域連携事業による社会連携・貢献や産学官連携の推進	
計画	・現状分析を行ない、地方自治体・各種団体との連携協定締結の可能性を探る（2024 年度には HSFC・札幌市地域連携プラットフォームの事業を開始し、他に札幌市との包括連携協定を協議中） ・目的別協定の整備を進める
KPI	・札幌市などとの協働事業を実施し、道内の人口動態と札幌への人口一極集中の実像を明らかにする（2026 年度以後もこの分析を続ける）
２．地域との連携・交流の強化	
計画	・現状分析を行ない、近隣地域（豊平区・近隣町内会）との学生やサークルを含めた交流のための計画を立案
KPI	・地域との交流のための計画の立案 ・公開講座の開講
３．社会・地域連携を推進するための組織改革	
計画	・現在、開発研究所及び地域連携推進機構で実施している総合研究や地域連携事業や開講講義を、地域開発研究センターの事業体制に移行するための作業・手続きなどを行う
KPI	・総合研究による地域連携/貢献事業を 5 件以上実施 ・アントレーナーシップの精神を育成するための「①スタートアップ講座」や「②ビジネス実践講座」を開講

＜北海商科大学＞

１．地域課題の解決に向けた学びの促進	
計画	・札幌市における地域貢献事業に関する協議を北海学園大学と実施 ・各ゼミナールにおいて、人口減少や高齢化等の地域課題の解決に関するテーマを決定
KPI	・学術発展センターで連携内容の具体化を検討、試行 ・各ゼミナールでテーマを決定

＜北海高等学校＞

１．地域に根ざした活動への積極的な取り組み	
計画	・部活動単位で実施している既存のボランティア活動に関する情報発信強化と規模の拡大 ・札幌東ロータリークラブとの連携 ・生徒会執行部と全校的なボランティア活動の実施を目指した協議
KPI	・ボランティア活動に関する情報発信数増加 ・札幌東ロータリークラブ活動報告 ・全校的ボランティア活動の具体案作成

＜北海学園札幌高等学校＞

１．　地域社会への貢献と連携の推進	
計画	・旭水町内会と年２回以上の会議を開催し協定に関する確認を行うとともに関係性の再構築を含め今後の連携について検討 ・豊平まちづくり協会との連携を模索するため、協議を開始
KPI	・旭水町内会との協定確認、今後の連携について方針確認、本年度事業の決定と実施 ・豊平まちづくり協会との協議（連携可能範囲の整理と具体策への準備）

5．国際化

＜北海学園大学＞

1．　国際交流支援体制の構築	
計画	・国際交流課、国際交流委員会と連携し、国際交流センター設置に向けた検討を開始
KPI	・国際交流センター設置の検討開始

＜北海商科大学＞

1．海外協定校との研究・教育交流の充実	
計画	・新設する授業科目の主要なテーマと目標を設定 ・交換留学生と本学学生との交流を通じた異文化交流行事（イベント）の内容の検討を開始
KPI	・国際交流センターで主要なテーマと目標を検討 ・国際交流センターで異文化交流行事（イベント）の内容を検討

＜北海高等学校＞

1．英語教育の充実による英語力の向上	
計画	・英検受験推進策の検討と試験対策の実施 ・国際交流委員会からの「HOKKAI English news」のデジタル配信 ・英語以外の各教科における授業や探究活動での英語活用策の検討
KPI	・英検受験推進策決定と一部実行、試験対策実施 ・「HOKKAI English news」のデジタル配信（年 3 回以上） ・教科を横断した英語活用方法の策定
2．国際理解教育の強化と新制度の検討	
計画	・国際理解教育プログラム参加者増加策の検討 ・ニュージーランド ウエリントン高校との交換留学制度に関して、同時に事業を実施する北海学園札幌高校と協力体制強化を目的とした協議を実施 ・カナダ ブロック大学語学研修の今後の在り方について検討 ・アメリカポートランド州立大学語学研修制度の実施検討
KPI	・国際理解教育プログラム参加者増加対策の実施 ・北海学園札幌高校との協議と事業終了後総括の実施 ・ブロック大学語学研修に関する方針決定

＜北海学園札幌高等学校＞

1．グローバル人材育成のための支援体制構築	
計画	・海外大学進学委員会設置に向けた検討組織を起ち上げ、検討を開始
KPI	・海外大学進学委員会設置の検討（現状支援体制における課題整理、委員会設置に向けた方針策定）

６．広報･ブランディング

＜北海学園大学＞

１．広報活動における SNS 活用の推進	
計画	・事務部庶務課、学習支援システム課及び入試部入試課と連携し、SNS への投稿を行う
KPI	・15 秒前後の動画又は静止画を年 40 本程度、2 分前後の動画を年 3 本程度作成し投稿
２．高大連携の推進	
計画	・主たる担当部署の設置を検討 ・併設校 2 校に対する事業を開始
KPI	・仮称）　高大連携委員会の規程等の完成 ・北海高校の「総合的学習の時間」への全学的な参画 ・北海学園札幌高校での大学説明会の開催
３．広報／ブランディング体制の検討と整備	
計画	・広報体制を現状分析する ・仮称）高大連携委員会の役割、規程等を検討
KPI	・分析結果の報告 ・仮称）高大連携委員会の規程等の完成
４．入学者確保のための選抜制度改革	
計画	・一般選抜（統一型）実施要領を確定 ・総合型選抜実施要領を確定（経済学部、人文学部、工学部） ・地方選抜会場（東北地域）の変更を準備
KPI	・一般選抜（統一型）の実施 ・総合型選抜の実施（経済学部、人文学部、工学部） ・地方選抜会場（東北地域）の変更

＜北海商科大学＞

１．大学広報の強化と選抜方法の見直し	
計画	・入試・広報センターが主体となって「受験生応援サイト」のリニューアル検討 ・2028 年度入学定員充足に重点を置いた広報活動を強化するため、オープンキャンパスの在り方について検討
KPI	・広報委員会で原案を作成 ・入試委員会で「テーマ別オープンキャンパス」や「語学以外の体験授業」等のオープンキャンパスの開催を検討し、実施後はオープンキャンパス参加者に対してアンケートを実施し、改善点を把握
２．積極的な広報と SNS の活用推進	
計画	・広報委員会において SNS の活用方法の検討を行う（年 2 回） ・タイムリーな情報発信が行えるよう、運用方針とガイドラインの策定
KPI	・広報委員会で大学にとって最も効果的な SNS プラットフォーム（Instagram、TikTok など）の選定を検討 ・各部署に SNS 運用担当者を配置し、責任を持って情報発信を行う体制を整えるように検討を行う

＜北海高等学校＞

1．多様な広報活動の展開	
計画	・過年度のウェブサイト閲覧者数やイベント参加者数等の広報関連データの分析に基づく入試広報施策の検討 ・来場者アンケート結果、中学校へのヒアリング等に基づく学校公開内容の検討と実施 ・2027 年度入試に向けた情報発信計画案の検討
KPI	・入試広報施策の決定及び一部実施 ・学校公開来場者数維持とアンケート結果分析 ・情報発信計画案の策定

＜北海学園札幌高等学校＞

1．多様な広報事業の展開	
計画	・学校説明会、オープンスクールの内容見直し ・ホームページリニューアルに向けた検討開始 ・学校案内パンフレットの内容見直しに関する検討開始
KPI	・学校説明会、オープンスクール来場者アンケート集計・分析 ・ホームページ内容精査、アクセス状況分析結果の共有 ・学校案内パンフレットの見直し検討（進捗 30%）

＜学園全体＞

1．戦略的・効果的な広報事業の検討	
計画	・広告掲出を中心とした広報に関する認知度調査実施と調査結果に基づく広報事業の見直し検討
KPI	・認知度調査実施、結果と提案内容の関係者への提供
2．学園ブランド推進のための Visual Identity（VI）の整理・確立	
計画	・法人及び設置各校教職員から成る VI 検討チームを起ち上げ、VI に関する現状整理と確認を実施
KPI	・VI の現状把握作業完了

7．経営基盤

＜北海学園大学＞

1．業務効率化の推進	
計画	・全学及び学部の委員会の業務内容を検証し、委員会の統廃合や委員の人数の削減を検討 ・会議時間は原則として 1 コマ以内を目指し、効率的な議事を運営する ・事務業務の内容を検証し、効率化を検討
KPI	・全学と学部委員会の数（5 名相当減） ・会議時間短縮に関する達成率（40%）
2．女性教員の採用促進	
計画	・全学部で公募書類の備考欄に「業績等が同等であれば女性を優先的に採用すること」を明記する
KPI	・女性教員比率 20%～25%
3．学内公式文書の学内開示と管理に関する基本的枠組の構築	
計画	・学内公式文書の作成、管理、保存状況を調査し、課題を整理する
KPI	・学長室と事務部による現状把握と課題設定

＜北海商科大学＞

1．教職員の資質･能力向上のための取組み推進	
計画	・SD 研修にかかる年次計画を策定し、教職員の資質向上に必要な研修を計画的に実施 ・北海道 FD･SD 協議会等の本学以外の機関または団体が主催する研修等へ参加
KPI	・SD 委員会で研修会の年次計画の策定及び研修の実施 ・外部の研修会 3 件以上に参加
2．財務内容改善に向けた経費の削減	
計画	・一般管理費（消耗品費、備品購入費、印刷製本費、光熱水費等の支出について目標を定めて見直しを行う ・施設等有効活用推進･管理的経費節減推進チームを設置する
KPI	一般管理経費の毎年度 3 %見直しするため、教職員間での経費節減の意識を高めるため成功事例や効果的な節減方法を共有するなど具体策を講じていく ・一般管理費削減（2024 年度比 3%減） ・教職員の経費削減意識向上のための具体策の周知 ・施設等有効活用推進･管理的経費節減推進 WG を設置
3．若手研究者･女性研究者等の研究充実のための各種委員会業務見直し	
計画	・各種委員会等の業務を整理するため、既存の業務の見直しを行う
KPI	・各種委員会等の業務に関してワークフローの見直し（業務プロセスの標準化や重複業務）を整理する
4．学生データの一元管理を行うシステムの構築	
計画	・学生データの一元管理を目的としたシステムを導入するため、必要な情報の整理や活用方法の検討、情報収集の方法等の検討を入試委員会中心に開始
KPI	・入試委員会を中心に、他部署とも連携した検討を年 3 回以上実施

＜北海高等学校＞

１．北海校校友会との連携強化	
計画	・創立 140 周年記念事業として記念講演会の企画、実施 ・校友会奨学金制度拡充、校友の集い、教育振興資金の協力、創立 150 周年等に関する校友会との協議開始
KPI	・創立 140 周年記念講演会の実施 ・北海校校友会との協議（5 回以上） ・「北海高校教育振興資金」の案内件数増(校友会支部総会、同期会などへの参加件数による)
２．コンプライアンスの遵守と危機管理体制の強化	
計画	・教職員の危機管理意識向上のための取組を企画（全教職員向け研修、学年会他での話題設定） ・コンプライアンス遵守の意識共有に係る顧問会議の実施 ・学校評価へのコンプライアンスに係る項目設置案の検討
KPI	・危機管理体制マニュアルの見直し ・危機管理意識向上に関する取組実施 ・コンプライアンス遵守に係る各種会議の実施 3 回以上 ・学校評価新規項目設置の確定
３．防災体制の強化	
計画	・避難訓練の在り方に関する検討の開始 ・2026 年度以降の訓練に関する北海学園札幌高校との連携について協議開始 ・災害発生時の各種事象を想定した資料作成の開始
KPI	・避難訓練の在り方ついて方針策定、一部年度内実施 ・北海学園札幌高校と連携した避難訓練に関する協議、まとめ ・周知用資料作成（進捗 30%）
４．分掌の再編、業務の統合等の検討	
計画	・分掌の業務整理と業務効率化に向けた見直し案作成開始 ・定期試験、入学試験採点業務への自動採点ソフト導入と活用効果分析 ・北海学園札幌高校と共同可能な業務に関する協議実施
KPI	・分掌の業務整理と業務効率化に向けた見直し案作成（進捗 25%） ・自動採点ソフトの活用効果分析まとめ ・北海学園札幌高校と協議実施（共同可能業務の抽出）

＜北海学園札幌高等学校＞

1．入試方法の改良	
計画	・入試方法の改良にむけた検討を開始
KPI	・入試方法の改良に向けた情報収集
2．危機管理体制の強化	
計画	・情報システム管理運営委員会を中心に緊急連絡及び安否確認システム構築に向けた計画案を作成 ・防火・防災委員会において危機管理マニュアルの見直し実施と改善案検討
KPI	・緊急連絡及び安否確認システム計画案作成（進捗 30%） ・危機管理マニュアルの問題点抽出と改善案検討体制整備
3．健全な学校運営のためのコンプライアンス遵守	
計画	・教職員のコンプライアンス意識向上に向けた初期取組みの実施 ・コンプライアンス意識調査実施に向けた内容等の検討と調査実施 ・外部研修会参加と情報共有体制構築
KPI	・コンプライアンスハンドブック配付 ・コンプライアンス意識調査実施

＜学園全体＞

1．財政改善	
計画	・人件費比率 60%以下、経常収支差額比率 1%以上 ・補助金配分基準ごとの達成度把握と新規達成が可能な配分項目を選出し要因を分析 ・資産運用規程を作成し運用方針を定め、安全性を第一とした運用を実施。今後の財政計画に基づきポートフォリオを構築 ・北海高校・北海学園札幌高校の代替体育施設建築工事代金支払い後の決算状況を踏まえ減価償却引当特定預金への積立を検討
KPI	・決算時における財務比率により進捗を確認し次年度の目標値を定める。 ・補助金確定通知等による結果確認 ・定期報告と運用方法の見直しにより運用収入の維持・改善 ・財政計画と施設設備計画の確認
2．財務システム更新による業務効率化	
計画	・財務システムの運用開始。本部内全経理担当者がシステムを使用し予算管理・執行をシステム内で行い、私学法改正に対応した計算書類を作成
KPI	・運用開始による伝票の間違い等、ミス発生が多い内容を検証
3．監査機能向上と監事機能の実質化を目指した支援体制整備	
計画	・監事監査規程の制定及び施行 ・関連諸規程（内部監査規程）の制定及び施行 ・監査計画の策定及び監査 ・監事会の設置及び運営 ・監事、会計監査人、内部監査室による監査連絡会の実施
KPI	・監事監査規程の制定及び施行 ・関連諸規程の改正、制定及び施行 ・監査計画に基づく監査の実施 ・監事会の実施

4．法人運営におけるガバナンス強化のための環境整備	
計画	・ガバナンス・コードに基づき各原則や実施項目の遵守状況の点検 ・理事会及び常任理事会の運用体制の課題整理 ・外部役員・評議員への情報提供の在り方及び役員、評議員の研修について情報収集と検討
KPI	・ガバナンス・コードの点検の実施 ・現状の運用体制に関する課題整理及びそれに基づく各種検討の開始 ・外部役員・評議員への情報提供の内容・方法の検討及び実施、役員・評議員研修に関する情報収集及び 2026 年度に向けた研修の企画
5．学園事務職員の育成に関する各種方針の策定と研修体制の構築	
計画	・事務局長の下に事務職員育成方針検討委員会を起ち上げ、学園事務職員の人材育成に関する方針の検討を実施。また、SD 基本方針や職階別業務研修制度確立に向けて、設置校及び本部事務局で実施している SD の取り組みの現状を整理。
KPI	・検討委員会起ち上げ、開催（年間 5 回以上） ・人材育成方針原案（求める人物像、職務基準、人事異動方針）の作成 ・SD の現状整理（方針及び実施内容等の共通理解）
6．大学を中心にした学園全体の教育研究組織の在り方検討	
計画	・学園に必要な教育研究関連機関の検討（理事、大学・高校関係者） 特に前回の中期計画で積み残しとなった国際交流関係、教育関係機関の在り方について検討
KPI	・検討組織の開催（年 4 回以上） ・課題整理、必要機関の精査
7．教職協働を推進する機能的かつ合理的な事務組織の構築	
計画	・事務組織検討ワーキンググループ（実務者レベル）を起ち上げ、現行体制（本部事務局と設置各校事務）における業務と課題の洗い出しを実施
KPI	・ワーキンググループ立ち上げ、開催
8．魅力ある学園づくりのための大学組織見直し（北海商科大学）	
計画	・商学部の改組による新学部新学科構想の検討・策定 ・文部科学省への事務相談、次年度に向けた準備
KPI	・新学部新学科構想の決定（理事会承認）
9．魅力ある学園づくりのための大学組織見直し（北海学園大学）	
計画	・工学部の改組による新学部新学科構想の検討・策定 ・文部科学省への事務相談、次年度に向けた準備 ・大学・高専機能強化支援事業への申請検討
KPI	・新学部新学科構想の決定（理事会承認）
10．学園創基 150 周年記念事業の検討	
計画	・理事会で記念事業コンセプト・方針、事業推進体制を決定後、推進組織を始動させ、周年記念事業の企画案策定を諮問 ・推進組織内における各事業検討組織でコンセプト・方針に基づく具体的企画の立案を開始する
KPI	・事業コンセプト・方針、推進体制の決定 ・推進組織の始動と基本計画策定の諮問 ・各検討組織での立案開始（各組織 3 回以上開催）
11．寄付金募集体制の見直し	
計画	・これまで実施してきた各校教育振興資金の寄付等の更なる増収を図るため、必要に応じた制度や手法の見直し、寄付募集構造の抜本的な見直しを検討する ・寄付募集体制の検討を継続的に実施し新たな体制下での寄付募集を開始
KPI	・既存の寄付金募集体制を見直し、新たな体制下での寄付金募集を 2025 年度中に開始

8．施設設備

＜学園全体＞

1．　校地・校舎等の学修環境の整備と適切な管理・運営～耐震化・冷房化・バリアフリー化・老朽化対策	
計画	①耐震化 ・北海高校、北海学園札幌高校第 1 体育館耐震化（建替え）工事に伴う、高校用代替体育施設建築 2 年目/2 年計画 ②教育研究環境整備 ・学園大 7 号館 5 階教室/3 号館 1 階会議室冷房化 ・学園大図書館東側給排水管更新 ・学園大 5 号館外壁タイル補修 ・商科大 1 号館 4 階教室冷房化 ・商科大 1 号館教室 LED 化工事 ・札幌高校 2 号館外壁修理・塗装 ・バリアフリーマップに基づき整備優先度調査
KPI	①耐震化 ・耐震化率目標 大学（学園・商科）96.4% 高校（北海・学札）84.3% ②教育研究環境整備 ・一般教室等冷房化率目標（ｾﾞﾐ室・実験室除く） 学園大 94.8% 商科大 89.5% ・計画の実施と見直し
2．防災管理体制の強化	
計画	（BCM）BCP、防災マニュアルの継続的な見直し （防災）学内での防災イベントや訓練に関する、本部―設置校の共同開催検討 （入退館）入退館システムや AI 監視による、管理体制の強化についての検討 （警備）警備体制の見直しについての検討 （SD）他大学の事例視察
KPI	（BCM）BCM についての継続的な検討 （防災）地域住民にも周知し、参加してもらうことで、本学の危機管理体制や取組についての理解を得る。 （入退館）情報収集 （警備）警備体制の検討 （SD）他大学の情報収集

３．多様な学びに対応した ICT 環境の整備及び情報リテラシーの推進と情報セキュリティの強化	
計画	・豊平コンピュータ実習室整備（学園大） ・マルチメディア機器整備（商科大） ・コンピュータ教室整備（商科大） ・教務システム更新（商科大） ・学内ネットワーク機器整備（学園大・商科大・北海高校・札幌高校） ・事務 PC の更新（学園大・商科大・北海高校・札幌高校・本部） ・事務ファイルサーバの更新（学園大・商科大・北海高校・札幌高校・本部） ・情報リテラシー教育の実施（生徒・学生） ・情報リテラシー研修の実施（教職員）
KPI	財政状況等による事業の先送り等を除き、上記年度事業の 80%以上を実現する。 ---------- ◆情報リテラシーの KPI ①生徒・学生（在籍中 1 回以上受講） 「情報リテラシーセミナー受講者数」 《評価基準》 生徒：在校生の 95%以上 学生：在学生の 65%以上 ②教職員（毎年 1 回の受講） 「情報リテラシーセミナー受講者数」 《評価基準》 教育職員：在職者の 50%以上 事務職員：在職者全員 ※事務職員は重要な情報資産を取り扱うため、受講必須とする。
４．ビジョンの実現を目指したキャンパスプランの検討	
計画	・検討チーム組織とキャンパス及び施設の現状と改修等に関する状況の共有 ・各校への意見聴取実施 ・計画方針の検討
KPI	・計画に係る方針決定

Ⅲ．予算の概要

１．2025（令和 7）年度予算編成の方針

本学園を取り巻く環境は、少子化の進行やエネルギー価格をはじめとする物価の高騰など、大変厳しい状況にあります。学園としても、今後、北海学園大学、北海高校、北海学園札幌高校の体育館建て替えという大規模事業を控えており、徹底した予算管理が必要となります。そのような中、北海学園創基 150 周年となる 2035 年に向けた目標「北海学園 VISION 2035」を掲げ、目標達成のためのプロセスとして本年度から「北海学園中期計画 2025-2029」で策定した施策を実行することとしています。中期計画の施策を着実に遂行するためには、計画期間の各年度において限られた財源を効果的に配分しなければなりません。そのためには、安定した学生生徒の確保と、支出抑制を推進することで、収支の均衡を目指した財政基盤の確立が必要です。

以上のことを念頭に置き、2025 年度は以下の点を基本的な方針として予算を編成しました。

■法人全体の財政健全化を前提とした前年度予算の見直し及び圧縮の推進
■教育・学術研究の充実強化
■公的助成・寄付金等による施設設備の高度化の推進
■国際交流・研究交流の推進
■高大連携等、特色ある教育の充実強化の推進

２．収支予算書について

予算書について、私立学校法による学校法人会計基準に定められた『資金収支予算書』と『事業活動収支予算書』の２種類を作成することになっています。

「資金収支予算書」は学校法人の当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入・支出の内容を明らかにし、支払資金の収入・支出のてん末を明らかにするものです。

「事業活動収支予算書」は、学校法人の諸活動に伴う収支を経常的な収支と臨時的な収支に区分し、それぞれの収支の均衡状況とその内容を明らかにすることによって、学校法人の経営状況が健全に維持されているかどうかを示すものです。

（１）資金収支予算書 概要

＜ 収入の部 ＞

① 学生生徒等納付金収入

新入生及び在学生見込数から試算した結果、98 億 6,685 万円を見込み、前年度予算額に対して 2 億 2,085 万円の増額となっています。学生数は合計で 11,173 名にて試算しています。

② 補助金収入

主に大学の経常費補助金、授業料等減免費交付金、高校の管理運営費補助金などにより、前年度に対して 2,987 万円増額の 20 億 3,604 万円と試算しています。

③ 前受金収入

26 億 9,815 万円を計上しており、その主な内容は納付金となっています。

④ その他の収入

退職金の戻り金収入による前期末未収入金収入、北海高校、北海学園札幌高校生徒のタブレット PC の立替金回収収入などの他、高校用代替体育施設建設費充当のための減価償却引当特定資産取崩収入 10 億円を計上し、15 億 3,381 万円となっています。

以上に、前年度繰越支払資金の 68 億 5,663 万円を加えた収入の部 合計は、206 億 7,764 万円で、前年度予算額に対し、2 億 6,333 万円の増額となりました。

＜ 支出の部 ＞

① 人件費支出

教職員合計 1,047 名で総額 73 億 6,404 万円を試算しました。前年度予算額に対し、1 億 9,362 万円の減額となっています。

② 教育研究経費支出

総額 32 億 8,126 万円を計上しています。電気料金、重油代等の値上げによる光熱水費支出の増加により、前年度対比約 0.2%増、649 万円の増額を見込んでいます。

③ 管理経費支出

報酬委託手数料の減額が主な要因となり、前年度予算額と比較し、924 万円の減額で、5 億 2,263 万円となっています。

④ 施設関係支出

建物支出の高校用代替体育施設建設費他 3 億 8,751 万円などにより、総額 4 億 9,019 万円を見込んでいます。

⑤ 設備関係支出

教育研究用機器備品費支出において北海学園大学のコンピュータ実習室更新費用他 5 億 8,471 万円を計上し、合計 9 億 8,426 万円となっています。

以上の収支により、翌年度繰越支払資金は 74 億 7,592 万円、前年度から 6 億 1,929 万円の増額となっています。

（2）事業活動収支予算書 概要

教育活動収支について、教育活動収入合計額は 124 億 3,701 万円となり、前年度予算額に対して 2 億 1,644 万円の増額となっています。主に学納金の増額が要因となります。

教育活動支出では、人件費が退職給与引当金繰入額を含めて総額 74 億 543 万円となり、前年度と比較して 3 億 1,454 万円の減額、教育研究経費は減価償却額を含め 43 億 3,748 万円と、前年度から 1,714 万円の減額、管理経費は前年度より 847 万円減額の 5 億 9,031 万円を計上しています。その結果、教育活動支出合計額は、123 億 3,323 万円となり、前年度予算額に対し、3 億 4,016 万円の減額となりました。

経常収入（教育活動収入合計額+教育活動外収入合計額）は 124 億 6,141 万円を見込んでおり、前年度予算額と比較して 2 億 3,814 万円の増額となります。一方、経常支出（教育活動支出合計額+教育活動外支出合計額）は 123 億 3,323 万円を予定し、そのすべてが教育活動による支出となっています。前年度予算と比較して 3 億 4,016 万円の支出減となっており、その主な要因となっているのは、人件費支出の減額であることが挙げられます。以上の経常収入と経常支出を合わせた経常収支差額は、1 億 2,817 万円の収入超過となっています。

特別収支の内容として、収入は施設設備に係る補助金を、支出については土地をはじめとした資産処分差額を計上しています。

以上の経常収支差額、特別収支差額、そして予備費 1 億 5,000 万円を合計した基本金組入前当年度収支差額は 9,243 万円の支出超過となっています。

基本金組入額は、主に資金収支の施設設備関係支出の資産計上額で 10 億 7,449 万円となり、当年度収支差額は、11 億 6,693 万円の支出超過です。

資金収支予算書（前年度比較）

収 入 の 部

（単位：千円）

	2024(R6)年度予算		2025(R7)年度予算		
	金　　額	構成比率	金　　額	構成比率	対前年度比　率
学生生徒等納付金収入	9,646,008	73.6%	9,866,858	71.4%	102.3%
手数料収入	267,520	2.0%	263,054	1.9%	98.3%
寄付金収入	59,450	0.5%	59,450	0.4%	100.0%
補助金収入	2,006,171	15.3%	2,036,042	14.7%	101.5%
付随事業・収益事業収入	26,200	0.2%	11,000	0.1%	42.0%
受取利息・配当金収入	2,700	0.0%	24,400	0.2%	903.7%
雑収入	295,293	2.3%	231,968	1.7%	78.6%
借入金等収入	-	0.0%	-	0.0%	
前受金収入	2,701,884	20.6%	2,698,151	19.5%	99.9%
その他の収入	794,898	6.1%	1,533,816	11.1%	193.0%
資金収入調整勘定	△ 2,689,779	△20.6%	△ 2,903,730	△21.0%	108.0%
計	13,110,345	100.0%	13,821,009	100.0%	105.4%
前年度繰越支払資金	7,303,965		6,856,633		93.9%
収入の部合計	20,414,310		20,677,642		101.3%

支 出 の 部

（単位：千円）

	2024(R6)年度予算		2025(R7)年度予算		
	金　　額	構成比率	金　　額	構成比率	対前年度比　率
人件費支出	7,557,664	55.7%	7,364,041	55.8%	97.4%
教育研究経費支出	3,274,773	24.2%	3,281,266	24.9%	100.2%
管理経費支出	531,876	3.9%	522,632	4.0%	98.3%
借入金等利息支出	-	0.0%	-	0.0%	
借入金等返済支出	-	0.0%	-	0.0%	
施設関係支出	917,810	6.8%	490,191	3.7%	53.4%
設備関係支出	377,766	2.8%	984,262	7.5%	260.5%
資産運用支出	268,125	2.0%	199,219	1.5%	74.3%
その他の支出	773,897	5.7%	540,147	4.1%	69.8%
〔予備費〕	〔300,000〕	2.2%	〔200,000〕	1.5%	
資金支出調整勘定	△ 444,233	△3.3%	△ 380,041	△3.0%	85.5%
計	13,557,678	100.0%	13,201,717	100.0%	97.4%
翌年度繰越支払資金	6,856,632		7,475,925		109.0%
支出の部合計	20,414,310		20,677,642		101.3%

事業活動収支予算書（前年度比較）

（単位：千円）

			2024(R6)年度予算		2025(R7)年度予算		
			金　額	事業活動収入比率	金　額	事業活動収入比率	対前年度比　率
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	9,646,008	78.4%	9,866,858	79.0%	102.3%
		手数料	267,520	2.2%	263,054	2.1%	98.3%
		寄付金	59,450	0.5%	59,450	0.5%	100.0%
		経常費等補助金	1,926,100	15.7%	2,004,682	16.0%	104.1%
		付随事業収入	26,200	0.2%	11,000	0.1%	42.0%
		雑収入	295,293	2.4%	231,968	1.9%	78.6%
		教育活動収入計	12,220,571	99.4%	12,437,012	99.6%	101.8%
	事業活動支出の部	人件費	7,719,981	62.7%	7,405,436	59.3%	95.9%
		教育研究経費	4,354,622	35.4%	4,337,481	34.7%	99.6%
		管理経費	598,795	4.9%	590,316	4.7%	98.6%
		徴収不能額等	-	0.0%	-	0.0%	
		教育活動支出計	12,673,398	103.0%	12,333,233	98.7%	97.3%
	教育活動収支差額		△ 452,827		103,779		△22.9%
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	2,700	0.0%	24,400	0.2%	903.7%
		その他の教育活動外収入	-	0.0%	-	0.0%	
		教育活動外収入計	2,700	0.0%	24,400	0.2%	903.7%
	事業活動支出の部	借入金等利息	-	0.0%	-	0.0%	
		その他の教育活動外支出	-	0.0%	-	0.0%	
		教育活動外支出計	0	0.0%	0	0.0%	
	教育活動外収支差額		2,700		24,400		903.7%
経常収支差額			△ 450,127	△3.7%	128,179	1.0%	△28.5%
特別収支	事業活動収入の部	その他の特別収入	80,071	0.7%	31,360	0.3%	39.2%
		特別収入計	80,071	0.7%	31,360	0.3%	39.2%
	事業活動支出の部	資産処分差額	121,107	1.0%	101,978	0.8%	84.2%
		その他の特別支出	-	0.0%	-	0.0%	
		特別支出計	121,107	1.0%	101,978	0.8%	84.2%
	特別収支差額		△ 41,036		△ 70,618		172.1%
〔予備費〕			〔250,000〕	2.0%	〔150,000〕	1.2%	
基本金組入前当年度収支差額			△ 741,163	△6.0%	△ 92,439	△0.7%	12.5%
基本金組入額合計			△ 1,132,251	△9.2%	△ 1,074,491	△8.6%	94.9%
当年度収支差額			△ 1,873,414		△ 1,166,930		
前年度繰越収支差額			△ 18,255,437		△ 20,128,851		
基本金取崩額			-		-		
翌年度繰越収支差額			△ 20,128,851		△ 21,295,781		

（参考）

事業活動収入計		12,303,342	100.0%	12,492,772	100.0%	101.5%
事業活動支出計		13,044,505	106.0%	12,585,211	100.7%	96.5%